

第4回まちづくり町民会議会議録

日時	平成20年8月6日（水）午後7時～午後9時15分				
場所	会津美里町役場高田庁舎 北第3会議室				
出席者数	委員 11名参加（+庁内検討会議 2名参加）				
委員	氏名	氏名	氏名	氏名	
	1班	佐藤国男	片山玲子	渡辺秀造	鈴木幸信
	2班	橋爪伸喜	高橋博之	東瀬紘一	石川栄子
	3班	塩田光顕	荒井弘之	斎藤力衛	鴻巣 俊
事務局	総合政策課長補佐	佐藤 智	総合政策係長	木崎 稔	
	総合政策課	榎森正典	総合政策課	渡部朋宏	

1. 開会

2. あいさつ

3. ワークショップ

テーマ「まちの現状に対して思うこと」

【発表】

第1班

いい点、悪い点をそれぞれ検討したが、結果を見て分かるとおり、いいことがなかなか思いつかない。そのような中で、いい点を上げると「人・物」があげられる。地方特有の人情のある人とか、おおらかな気持ちとか、集落内・近所で助け合うという風習がまだ残っている。そして、米がうまい、自慢できる。それから自然、四季がはっきりしていて美しい。特徴的なのは災害が少ないこと。地方の伝統文化なども多く残っている。文化財や伝統行事など活用できる資源が多く残っているが、残念なことこれらが有機的に結びついていないため、点と点になっており、どこを見ていいのか分からない状況になっている。治安の面から見ても、犯罪、事故等が少なく、すばらしい生活環境だと思う。また、政策として役場をほめていいと思うが、この町民会議のように、町民の声を聴いて意識を変えていこうという取組を行っていること。公民館等の解放を更に進めてほしい。施設はたくさんあるが、解放されていない実態もあるようである。

悪い点としては、大きく言って活力が感じられないこと。商店街の活気がなくなっている。閉じている商店も見られる。何を持って歴史と文化のまちと言っているのか分からない。まちとしての未来展望が描けない。実際に行っているイベントについて、オール会津での開催を考えてはどうか。町や商工会で行っている各種イベント等の内容の見直しが必要ではないか。環境については、まちの環境保全に対する配慮が足りない。特に山が荒れている。耕作放棄地も増えている。これは高齢化により人がいなくなったという要因もあるだろう。そのような中で今後どうしていくのが課題である。交

通としては、通勤に時間がかかる。交通の便が悪い。電車の本数も少ない。次に人材育成面について、町内には多くの人材はいるが、実際に行動しなければ価値がないので意識を改めてもらいたい。職員の対応（言葉使い）が悪いという意見もあった。役場として改めるべきであろう。次に少子高齢化ということで、町内に一人暮らしの老人が増えてきたこと。結婚できない人も増えている。若者が少ないなど、よくあちこちで言われている現象が出ていると思う。老人介護の施設が足りないのではないかと。役場に対して、合併して2年半経過したが、まだ一体感が感じられない。まちとしての取組も必要だろう。物理的に3箇所に分かれていたので、1つにしてしまった方がよいと思うが、そのあたりも考える必要があるのではないかと。意識改革としては、おもてなしの心を持って、イベントの受入体制を行っていく必要がある。イベントのお手伝いの人たちが、交通整理で何もしないで座っている人がいたりして、それではどうかと思う。昔から何も変わらない、何というのが問題なのだが、そこまでは掘り下げることが出来なかった。住民の意識がどこにあるのか見当がつかない。「会津の三泣き」というが、外から来る人にとって、なじむまでが時間がかかって悲しい思いをすることもあるようである。住民の自主活動が足りないのではないかと感じる。このあたりは問題で、どうやって盛り上げていくかが課題であると思う。公民館活動で中高年の人が多いが、その中で町を変えるような建設的な発想とは結びつかないように感じる。次に雇用の面について、これは大きな問題であるが、雇用が少ないため若者が町外に流出してしまう。それが結果的に人口を減少し、高齢化してしまう。企業の誘致活動をどうやっていくのか考えていかなければならない。特に男子型がないとやっていけないと思う。将来のビジョンについて、門前町構想について説明はされているがよく分からないという問題があるし、予定どおりいかないとな将来的に財政負担が大きくなる。大規模林道について、何のためにつくったのか。町に対しては、住みよいまちづくりのビジョンをだしてほしい。子どもが楽しく元気に住めるには、という視点が不足しているのではないかと。財政面では、分からないままに多額のお金が使われている。門前町とか大規模林道とか。あやめ温泉の統一料金について、本郷や新鶴の温泉は健康ランドだが、あやめ温泉は銭湯なので、統一料金はおかしい。借金の返済が一番先だ。自治会組織の活性化ということで、今の自治の区割りを見直す必要もあるのではないかと。

第2班

まず「協働のまちづくり」について、その意味を町民が理解しているのか。町の広報紙について、せっかく立派に作った広報なので、どのようにしたら読んでもらえるか工夫すべき。1班からでもだが、あやめ温泉の利用者が減っているので、対策を考えるべきである。自然は町の財産という認識が必要ではないか。空地や空家の活用、手入れがされていない山や耕作放棄地も目立つので、対策が必要ではないか。また、どのような町にしていくのか、子ども達のためにどのような町をこれからつくっていくのか明確にすることも重要である。前向きでない町民の考え方としては、人材が限定されている。これは同じ人ばかりが出てくるということ。家庭のことには一生懸命だが、地域のことにはあまり一生懸命でないという意見もあった。身銭を切ったまでの改革を望まないという意見もあった。町外勤務者は寝に帰ってくるだけで、地域活動も参加しないという人もいるようである。くずびっていることを表に出さないということで、会津人の特徴かもしれないが、そういう傾向もある。会津美里町のブランド産品がない。高田梅は美里としてのブランド産品ではないので、美里ブランドを役場主導で、商工会主導で、早期に確立する必要がある。地域のリーダーがいない。いない訳ではないだ

ろうが、協力性がないということか。議会議員も歳費削減すべきということで、この会議は無報酬であるが、町の将来の財政を考えれば、議員の率先して削減することが必要ではないか。活動が消極的については、公務員や公務員OBはもっとボランティアに参加すべきということで、現職の役場職員、役場だけではないが、退職された方などは率先してボランティア活動に参加すべきという意見である。よい意見としては、子ども達への挨拶の指導がよいという意見があった。いずれにしても、1班、2班とも共通点が多いため、というのが特徴である。

第3班

今まで1班、2班の発表があったが、感じる意見はほとんど同じである。大まかに発表したい。まず、観光について、高田、本郷、新鶴それぞれの地区があるが、イベントを行う際には、経済効果を考えて観光客の誘客を図るべき。まちの観光をどのようにしていくのか、町の考えが見えてこない。伊佐須美神社の境内が囲ってあるが、もう少し開放的にできないか。蓋沼についても、もっと活用する方法があるのではないかと。いずれにしても、観光には力を入れていくべきとの意見が多かった。また、1班、2班でも出たように企業誘致には期待が大きい。仕事場がなければ若い人が住めない、やはり仕事場が欲しいという意見である。ハード面について、インフラ整備が遅れているのではないかと。また、町の拠点、役場を拠点にするのか、公民館を拠点にするのか、多目的ホールが必要なのか、など様々な意見はあると思うが、みんなが集まれる拠点があれば、町が活気づくのではないかとという意見である。交流については、町内外の人たちとの交流、美里町は合併している、それぞれの地域の方と積極的に交流した方がいいのではないかとという意見である。また、坂下町や会津若松市など町外の地域との交流を進めるべきとの意見もあった。雰囲気については、この項目の意見が一番多いが、この中の意見としては、まず活気がない。商店街の活気、美里町の活気、店が少なくなって人通りも少ないという意見である。人については、人口が急激に減っていく中で、小学校、中学校の子ども達が外で遊ぶ姿も見えなくなっている。町民は町の補助金に頼りすぎる。もっと自主財源を確保し、町の財源に頼らずにイベントなどを実施してはどうかとの意見もあった。農業も、商業も、工業も非常に厳しい中で、農業人口、特に専業農家が減っているという意見である。その他、議員報酬について、報酬をもらいながらいろんな活動しているが、報酬が高すぎるとする意見があった。町税を増やすため、具体的な計画を立てながら町民の所得向上を図らなければならないのではないかとという意見もあった。職員の適性人数ということで、もう少し職員の人数が減ったとしても、運営が出来るのではないかとする意見もあった。

いいところとしては、自然が多い、治安がよい、米が旨い、静かである、場所として自然に恵まれたいいところであるという意見もあった。

4. その他

第5回まちづくり町民会議 平成20年8月28日(木) 午後7時～ 高田庁舎

テーマ「どんなまちにしたいか？」

理想とするまち(まちづくり)について検討する。

【質疑】

「どのようなまちにしたいか」を検討してもあまり意味がないので、次回は、提案「こういうようにしたらいいのでは」というテーマにした方が、まちの展望が開けてくるのではないかと。

(事務局) 当然そういうテーマも考えられるが、事務局としては、漠然と「どうしたらいいか」を聞いても、分野が広すぎて、何から意見を述べていいか整理しづらいのではないかと考えた。次回、理想とするまちを検討した上で、その後、現状と対比し、そのギャップを埋めるための対策を検討する流れの方が整理しやすいと思うが、委員の皆さんの意見をお聞きしたい。

今のやり方(現状 理想 対策)が分かりやすくいいと思う。テーマに沿って、集まった皆さんが様々な意見を出しながら検討していく、この過程が重要であると思う。

先に発表者を決めて、その人が中心となって検討した方が楽だと思うが。

(事務局) 基本的には、発表することが目的ではなく、検討した結果を、他の班の皆さんと共有するために発表するという趣旨である。なお、方法については、各班で決めてもらってかまわない。

次回は、予定どおりのテーマでワークショップを行うこととした。

5 . 閉会